

つながれ和泉っ子

～人と社会と未来の自分～

和泉



10月号

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/izu>

現在地を知る

校長 荒海 透

梅雨のような天候、さらには台風の影響で楽しみにしていたシルバーウィークの予定を変更せざるを得なくなった皆さんも多かったのではないのでしょうか。台風25号では神奈川県内にも大きな被害がありました。犠牲となられた方々にお悔やみを申し上げますとともに、被災された方々に対しまして心よりお見舞い申し上げます。この台風が関東に接近した際には、シルバーウィークのために学校はお休みでしたが、通常の土日であれば今年度に入って3度目の臨時休校になったかもしれません。これまで臨時休校といえば、台風等の影響による暴風が原因の中心でしたが、今後は大雨が原因になることも増えていきそうです。

さて、今年度も早いもので10月となりました。前期から後期へと移行する節目の時期といえます。これまで、朝会の中で、折に触れ「目標」をしっかりと見つことの大切さを伝えてきました。個人の目標をはじめとして学級、学年、そして学校の目標についても話をしました。校舎内の廊下や各教室には、それぞれの目標が掲示され、日々の学校生活の中で継続的に意識づけていこうとする先生方の工夫が感じられます。

夏休み明けの朝会では、それらの目標をしっかりと覚えていますか、と問いかけました。その上で、夏休み前までに熟慮を重ねた上で設定された目標が、実現に向けて動き出し、成長を実感できるような実り多い学校生活を送っていきましょう、と呼びかけました。成長を実感する上で、目標を忘れることなく、それを意識をしながら過ごしていくことは大切ですが、それだけでは十分ではないと思います。時には立ち止まり、自分が、あるいは自分たちが今、設定した目標に対してどの位置にいるのか、現在地を知ることが欠かせません。それを知ることによって成長した自分、未だ課題のある自分を認識し、成長を実感するとともに、今後の更なる成長へとつなげていこうとする原動力が湧いてくることでしょう。

前期末にあたり、各学級では一人ひとりが「自分づくりパスポート」を記録します。前期の学校生活を振り返り、学習面や生活面について成果や課題を挙げていきます。つまり、自分自身のことを客観的に見つめ、評価することになります。実際に自分自身を客観的に見つめることは容易ではありません。特にこれまでの生活経験が少ない下学年ほど難しく、良いところばかりに目がいたり、その反対になったりすることもあります。結果的に偏りのある評価になってしまうこともあるでしょう。しかし、この「自分づくりパスポート」は、小学校生活で完結するものではなく中学校へと引き継がれていきます。時間をかけて、自己調整力をつけていく必要があるということです。次期学習指導要領に向けた検討の基盤となる考え方の中に「自らの人生を舵取りすることができる」という言葉があります。進むべき道への見通しがもてるよう「現在地を知る10月」にしていきたいと思います。